光桂寺だより

第209号

真宗大谷派　光　桂　寺　〒838-0133 福岡県小郡市八坂２０１
TEL 0942−72−2432　FAX 0942−72−2486　印刷　片山印刷（有）

秋の永代経　ご案内

期日　二〇一九年十月十二日（土）

今年の夏も、梅雨明けはおそかったものの、猛烈な暑さが続きました。お彼岸を迎え、急に秋の気配が感じられるようになりました。

戦後七十四年、戦争を知っている世代が、いよいよ少なくなっています。戦争の記憶や教訓が薄れ、風化しようとしていることも、何となく感じられます。

特に世界でたった一国の被爆国「日本」が、果たさねばならない使命が存在します。核廃絶を世界に訴えること、そして実現していく事これを忘れてはなりません。

ボーっと日暮らしをするのでなく、まず疑問からでもいいので「考える人生」を送りたいものです。「よく見、よく聞き、よく考える」ことから、無意識を無くす努力は忘れてはなりません。

自分の有りのままの姿に「気付く」ことが大変大事なことであります。

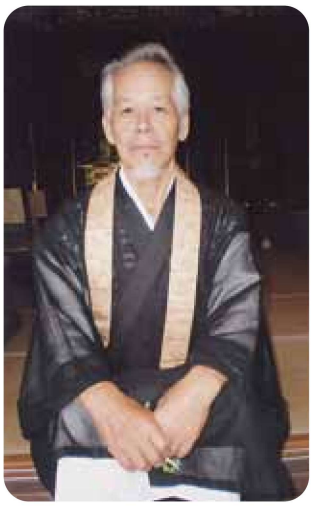
私たちの周りは、大きな災害もなく、実りの秋が近づきましたがその後皆さま如何お過ごしでしょうか。

災害による恐怖など色んな恐怖が身の回りには渦巻いています。少し大げさな報道などによって、さらに煽（あお）られているようにも思いますが、現実をしっかり見定めながら、難しいことながらしっかりと真実を見極めていかねばなりません。改めて情報の大事さが考えられます。

その一方毎日の生活では、一喜一憂することなく確実な歩みを進めなくてはなりません。その第一段階としては、自分を客観的に見ることができ、「気付く」には、仏さまの教えを聞くことから始まります。「私の現在に気付く」そして「そのあり様（よう）にうなずく」場として永代経の法座があります。聞法の場を通して自分と向きあう中から、今後の人生で何を求めていくか、自分のあり様（よう）を摸索する時として、秋の永代経を迎えていただきたいと願っています。

○おとき　正午
○おつとめ　十三時
○法　話　十四時
講師　八女市　浄慈寺様

※お世話前　平方、光行、古飯、宝城団地よろしくお願いいたします。



講師紹介
島村宣澄師
八女市立花町白木　浄慈寺住職

永代経志ご寄付者ご芳名

誠にありがとうございました。

[redacted]

盆踊り（夏祭り）
暑さをぶっとばせ！

今年の保育園の行事である夏祭り、合わせての盆踊り、小郡市の花火大会と重なり、暑さが厳しい中、十三時～十六時の短時間にはなりましたが、開催されました。夏祭りの中心だった「お店」は、夜店でなく昼店となりましたが、子どもたちには、手作りのおもちゃが景品であったためか、ゲームが一番の人気でした。

食べ物では、保護者の方が作ったワッフルが喜ばれました。保護者の方の中では、「パパの会」が、色んな準備からお店までタッチされ、特にカキ氷や水物販売には奮闘されました。

盆踊りは、午後の大変暑い中の三時半から始まり、園児も小学生も楽しんで参加していました。園児たちが作った灯篭は、その日の昼間灯すことができず、翌日に点灯しましたが、台風接近で慌しく片付けてしまい、残念なことでした。

ワクワクドキドキを体験した「夏の寺子屋」

「本当に自分のしたいこと」「しなければならないこと」「できること」を、友だちと「くらべず」「あせらず」「あきらめず」やっていこうと呼びかけ、八月二十日（火）～から二十三日（金）「夏の寺子屋」を開きました。天候にはやや恵まれなかったものの、事故無く終了しました。

参加者は小学生五十一名と昨年より増えました。スタッフは中高生など十二名で当たり、子どもたちと一緒に活動しました。

子どもたちにとっては、「わらしべ修行」が物を交換していく内に、何に変化していくのだろうと、ワクワクして楽しかった」という言葉や、未体験のことで楽しんだり口惜しがったりした思い出を語ってくれたので、他の色んな取り組みでも、ワクワクドキドキの四日間を過ごしたと思われます。

日頃体験しない火起こしや、外泊（キャンプ）。キャンプでの「きもだめし」や、今はなかなか出来ない「川遊び」をするなど、色んな体験を積み上げました。その中では、子どもたちが自分たちの意見を出し合う姿も見られ、人との関わりを学ぶ良い機会となったと考えられます。

解説　「わらしべ修行」　子どもたちが、地域のお家を訪問し、物物交換をして廻る

「終活について語り合う会」を開きます

皆さん方門徒の方々が集い、ともに語り合う場としての「光桂寺」を目指して、初めての取り組みですが、下記のような催しを企画しました。

壮年世代に関心が高く、最近テレビや週刊誌などでよく見聞きする「終活」をテーマとし、講師を招いて開催します。

講師は、大谷短期大学講師の 中島　航 先生をお願いしていますが、老人福祉や真宗の教えを通して「終活」をお話していただきます。

期　日　十一月三十日（土）十三時～
会　場　光桂寺
講　師　大谷短期大学講師　中島　航 先生
参加費　三〇〇円
内　容　講師の先生のお話と語り合い

講師紹介
中島　航 先生

先生は、京都の特別養護老人ホームの相談員を経て、現職に就かれる。成年後見人活動も行うなど福祉と真宗の両面に精通されている先生です。

いのちのことば

南御堂掲示板から
本願　恵著より転載

人は病（やまい）に気づいて　健康を求める

言われるまでもなく、世の中の大部分の人は身に覚えのあることである。

しかし、一生の間に百回病気をするとしても、九十九回の病は治る。

最後の一回は火葬しなければ消えることはない。

葬（とむらい）とは、「死を前にして生を問う」ことである。生活を問い直すことによって、生きることの意味に気づくこととなり、精神の健康を回復することとなる。

人は死ぬ身であることに気づいてこそ、生命（いのち）がけで心の健康を求めるようになる。病気によって健康のスバラシサを知り、死を前にして生命の尊厳を実感する。

光桂寺総代会の経過報告をいたします

八月二十六日、光桂寺総代会を開催。次のようなことが決められました。

①門徒会館建設検討小委員会委員の承認
　大中　慈、廣瀬義直、高松竜一
　古賀千代子、井手睦子、牟田加代子
　牟田優子、横山千加子　住職代理
　副住職　　以上十名

②本堂横の廊下修理
　着工を決定

③今年度の本山納金
　年額七、〇〇〇円を継続。十二月以降に徴収いたします

④臨時の、光桂寺総代会（九月予定）と門徒会総代会（十月予定）を延期
　門徒会館建設検討小委員会が進んでいませんので、当面延期となりました。

謹んでおくやみ申し上げます

[redacted]

（住職の）徒然なるままに

最近お参りした時に気づいた事を述べます。門徒ものしり手帳を読んでいただければ、大方の事は書いていますので、以下申し上げるようなことは起きていないと思いますが、皆さんは如何でしょうか。

まず真宗門徒と名乗っておられると思いますが、形が真宗と他の宗派の形が一緒くたになり、お内佛（お仏壇）を見た人から「お宅は何宗なのですか、よく分りませんね」と言われたら、形が整っていないということに間違いありません。

ものごとは、形から入るということはよく言われていることなので、お解かりかと思いますが、まず形を整えることから、心も整えられると考えます。そこから真宗は（お釈迦様）はどんな事を説いているのか、探っていって欲しいと思います。そして今後の人生、どのように生きていくか、聞法しながら模索していく事こそ、私たち真宗門徒に課せられた課題と思います。

そこで改めて皆さんに申し上げます。今回は次の点についてご記憶ください。

枕直し勤行（光桂寺だより二〇一号参照）

○準備

・ご本尊

・ご遺体の顔に白布を掛け、枕直しの勤行となる

写真協力 〈草苑〉

中陰中のお内佛荘厳

打敷は白色（間に合わない場合は、通常の打敷を裏返し使用）

四十九日が過ぎたら、片付けること。

以後、内敷使用の場合は、裏返しして使用しない。（百ヶ日、一周忌、その他の方の法事などは通常の表向きにして使用）

葬儀（葬式）での親族遺族の心得

（門徒ものしり手帳二十三、二十四頁参照）

二十四頁の　三項目、四項目

返礼（会葬者に対しての返礼、ご挨拶）はしない。静かに着席しておく。

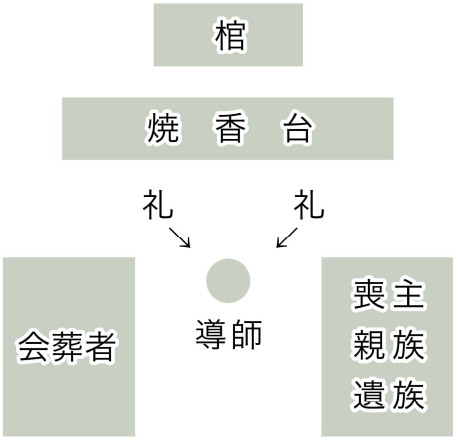
・焼香に向かう場合、導師のみに挨拶（礼）をし親族や参列者に向って挨拶（礼）はしない。遺族に（身内）に向っては当然挨拶（礼）はしない。自席に戻る際も、導師のみに挨拶（礼）をし、参列者に挨拶（礼）はしない。

・焼香に向かう（あるいは自席に帰る際に）参列者が挨拶した場合は、返礼はしない。

・経（正信偈）を読まない

・私語を慎む

おしゃべりは、厳粛さを壊す行為なので慎むこと。焼香などの順番などで、先を促す場合は手振り身振りで伝えるよう心がける。



（葬儀の略図）